

# 市民と市長の対話集会

第100回

タウンミーティング記録集



平成28年3月26日(土曜日)

会場 市民センター

時間 午前10時~正午

東村山市

## ○開催内容

平成28年3月26日（土）午前10時、市民センターにおきまして、「タウンミーティング」を開催しました。約40名の方にご参加いただき、ご意見をうかがいました。

今回は第100回の節目ということで、前半はこれまでお寄せいただいたご意見に対する取り組み状況などを説明し、後半は参加された方からご意見を伺って市長との意見交換を行いました。

## ○会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は会場入り口で配付し、うち29枚を回収しました。

### ・ アンケート回答者の住所地

恩多町	5人
その他市内	21人
市外	2人
未記入	1人
合計	29人

### ・ 年齢

20代以下	3人
30代	3人
40代	1人
50代	3人
60代	5人
70代	8人
80代以上	5人
未記入	1人
合計	29人

### ・ 性別

男性	20人
女性	8人
未記入	1人
合計	29人

## ○開催情報

●対象 市民の方（在勤・在学の方含む）

●申込み 申込みは不要です。当日、直接会場にお越しください。

（手話通訳・要約筆記が必要な方は、開催日の1週間前までに

FAXまたは電話またはEメールにてご連絡ください）

連絡先：東村山市役所 市民協働課 電話/(393)5111 fax/(393)6846

Eメール/kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
平成28年6月30日（木）	市民センター	午前10時～正午

※6月のタウンミーティングは、小・中学生のお子さんをもつ保護者の方を対象に開催いたします。

# タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

## 【市長あいさつ】

皆さま、おはようございます。年度末の大変お忙しい中、第100回目を迎えることとなりました市民の皆さんと私の対話集会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

後ほど説明させていただきますが、私が初めて市長に就任させていただいた平成19年の10月から始めさせていただいてほぼ毎月1回ずつ、約8年半になりますが、今回で100回目を数えるに至ったわけでございます。おかげさまで延べ3000人以上の方にご参加をいただいて、2000件を超えるご意見をいただいてきました。今日はその大まかな傾向やそれがどのように市政に反映されてきたかをご説明させていただきたいと考えております。

月1回ではありますけれども、私にとりましてはこのタウンミーティングで直接、市民の皆さまの生の声を聞かせていただくというのは大変貴重な場だと考えておりまして、これからもこうした地道な作業を続けさせていただいて、より良い東村山を目指していきたいと考えているところでございます。今日は1時間しかありませんけれども後ほどまた忌憚のないご意見をいただければと考えております。

いずれにしましても、これまで100回にわたって続けられましたのは毎回ご参加いただいている多くの市民の皆さま、それから担当所管の職員のおかげですので、改めて皆さまに心から感謝を申し上げて、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 【会場でのご意見】

～みんなで作る安全・安心とうるおいを実感できるまち～ について

### ◆排出ごみを利用したバイオマス事業を

(萩山町 Tさん)

シルバー人材センターで植木の手入れをされていて、毎日2トントラックに10数台の枝葉が出る。一部はチップにしたり、たい肥にしたりしているようだが、大半は秋水園で燃やしている。これをバイオマス発電してはどうか。市内には造園業者もたくさんいるので膨大な枝葉が出ているはず。これを秋水園に簡単な設備を作って乾燥させ、燃やしてボイラーで発熱する。バイオマス発電はいろいろな自治体や企業・大学等で研究されているようだが、本当に効力をあげているところはまだないようだ。そこでぜひそういった関係者や研究者でチームを作ってとりあえず研究ということで予算をつけて検討してはどうか。東村山方式ということで確立して、日本中あるいは世界中に発信するという計画をしていただきたい。

#### ◎ 市長回答 ◎

バイオマスについては近年、特に林業が盛んな地域で非常に注目を集めていて、一番有名なところでは岡山県真庭市で、経済評論家の藻谷浩介さんが「里山資本主義」という本を書いて注目を集めております。市としてもそういったことについて研究することはやぶさかではないのですけれども、どの程度の排出量があれば可能なかということと、コストがどの程度なのかということが大きな課題になると考えております。

今後、ごみについては処理方法をどうしていくのかということを検討したいと考えております。秋水園の炉が35年経過しておりまして、延命化工事を2回しているのですが、使えてもあと10年ぐらいという時期になってきておりまして、今後、市民の皆さんが日々、排出されるごみを安定的・継続的に、しかもできるだけ地球環境に負荷をかけず、かつ経済効率性の高い処理方法をどのように進めていくかということが市にとって大きな課題の1つだと考えております。その中で当然バイオマスということについても、先ほど申し上げたような条件の中でどういうことができるのか、研究したいと考えております。

#### ◎ 施設課より ◎

平成28年度には、東村山市のごみを将来にわたって安定して処理するために、ごみ処理施設のありかた検討会を設置し、ごみ処理施設基本方針策定に向けた検討を行うこととしております。

本検討会では市民の方のほか、学識経験者や専門家を含めた構成で行い、バイオマス発電に限らず、可燃ごみの処理方式についても、検討会の場で議論を深めていければと考えております。

## ◆多摩湖自転車道の交通対策について

(萩山町 Mさん)

萩山地区の多摩湖自転車道に新しい道路ができた。その道路を皆さんは歩行者専用道路と理解しているが、中央公園に聞いたところ緑道だということで、自転車が走って良いと聞いてびっくりした。萩山駅の近くの踏切のところにある看板も「多摩湖自転車道・歩行者道」となっているが、高齢者や身障者のお話を伺うと、歩行者専用になれば自転車が来る心配がなくて済むという話なので、あそこを何とか歩行者専用道路にして欲しい。自転車のほうも水道道路だけを自転車で走れるようになると良いと思うので、ぜひお願いしたい。

### ◎ 市長回答 ◎

多摩湖自転車道、いわゆる水道道路とかサイクリング道路と言われている通りについて、今、東京都のほうで萩山町3丁目から栄町、それから美住町について既存の側道のような部分を拡幅整備していることは承知しています。Mさんのご意見はそこを歩行者だけが通れて、自転車は通さないように東京都に働きかけて欲しいという趣旨だと思うんですけども、恐らく東京都は首を縦には振らないとお話を聞いていて感じたところでございます。

規制はできないかもしれませんが、せっきく道路が2本あるわけですから自転車は極力こっちを通って歩行者はこっちを通ってもらうというようなマナーというか呼びかけをしていただけないかどうか、東京都と都から委託を受けている管理事務所の方々と協議させていただきたいと考えております。

水道道路につきましては、かねてから歩行者と自転車が混然としていて、時間帯によっては猛スピードを出す自転車の利用者がいて危険だというご意見をいただき、東京都にも再三にわたってお願いをしまいでまして、看板の設置等をしていただいております。そのようなことが背景にあって、今回、水道道路上に2本道路を造るということになったのではないかと推測しています。

今後もより安全に歩行できるように、自転車に乗っている方についても一定速度を保って歩行者に気を付けて通行していただけるように、市のほうからもお願いしたいと考えております。

### ◎ 道路管理課より ◎

東京都へ要望があった旨を伝えてまいります。

## ◆多磨全生園へ車椅子の人も入りやすく

(青葉町 Tさん)

多磨全生園の北門に進入防止のためのアーチ型のパイプがあり、今までは取り外しができたが、今は、がっちりと網が張ってある。あそこは車椅子で花見に行ったり散歩するコースになっているので、これを何とかして欲しい。

### ◎ 市長回答 ◎

ちょっと具体的なイメージが湧かないので、確認させていただきます。

### ◎ 企画政策課より ◎

多磨全生園の庶務課へ確認したところ、平成27年秋ごろに当該箇所をバイクが無理に通り、自損

事故を起こしたため、現在の状態になっているとのことでした。このようなことも踏まえて、当該箇所は多磨全生園の敷地であるため、正門から入っていただければ幸いですとのことでした。

## ◆防災行政無線の活用を

(萩山町 Mさん)

防災行政無線を使って、例えば「萩山町の防災訓練、開始」というようなことをしてもらえるとありがたい。11月に萩山町で防災訓練があったが、帰り際、町の人に「今日は何かあったのか」と聞かれ、回覧が回ったと言っても認識が薄いようだった。その辺の活用をお願いしたい。

### ◎ 市長回答 ◎

防災行政無線を地域の震災訓練に活用できないかということでもあります。東日本大震災の時に市でもかなり防災行政無線を活用して計画停電のお知らせ等をさせていただきましたが、老朽化しているということで、その後、全てデジタル無線に切り替えさせていただきました。以前の無線システムでは1箇所の訓練のために全市に放送しなければいけないということから、基本的には萩山町で震災訓練をするということを全市的に流すのは難しいということでお断りしていたのですが、今回、デジタル化したことによって一部のエリアだけ放送を流すということが技術的には可能になっています。

ただ、平成23年の東日本大震災の時もそうだったのですが、一度放送を流すと市役所に「室内にいると何を言っているのか聞き取れない」、「何を言ったのか」という問い合わせが500~600件ぐらいありました。デジタル化したことによって多少改善されているところがありますが、基本的には室内にいるとやはり何を言っているのかあまり聞き取れないという苦情を相変わらずいただいておりますので、防災行政無線を流すとなると問い合わせに対して市もそれなりに対応ができるような体制を取らないと、訓練といえども簡単には流せないという危惧が正直ございます。

今、全戸配布させていただいている新しい防災ガイドマップにもお示ししていますが、事前に登録していただくと防災行政無線で流した情報をメールで配信するサービスをしていますので、ぜひこの機会に登録いただいて、防災行政無線で流したことをメールでも確認できるようにしていただけるとありがたいと考えております。

ご趣旨の地域の震災訓練、あるいは避難所開設訓練等で防災無線を活用するかどうかということについては、持ち帰らせていただいて担当所管と可能かどうか、可能とした場合どういう体制を取らなければならないか検討したいと考えております。私も一方では無線を訓練に活用する必要性はあると認識しているところですが、市民の皆さまに過度に混乱を招いてしまうのもよろしくないもので、やるならばその体制をしっかりとった上でやらせていただきたいと考えております。

### ◎ 防災安全課より ◎

防災行政無線を活用した広報は、緊急性及び重要性を加味したうえで実施の可否を検討する必要があります。

現在は、市内のみならず、隣接市への影響も考慮し、地域の訓練に関する広報については、防災行政無線を使用しておりません。

今後は、地域を限定した防災行政無線の放送も含めた訓練広報の手段や、防災行政無線メールシステムの登録状況も踏まえ、より効果的な広報について検討してまいります。

◆子どもや高齢者の居場所づくりを

(野口町 Nさん)

子どもの居場所づくりの活動をしている。市には空き家・空き店舗が600戸ぐらいあると聞いているが、市の計画としてそれらを活かすようなことが条例として出てきているのか。それと元々市が持っている施設を活かして子どもたちの居場所づくりができないか。子どもの孤食ということから活動を始めたが、東村山は高齢化も進んでいるので孤食の高齢者も多い。この子どもと高齢者をつなぐ取り組みが他市ではどんどん進んでいて、武蔵村山市では空き家を使った居場所づくりをしている。国全体でも高齢化が進んでいて、子どもが少ないという状況で、東村山市も人口減少にある。これを止める鍵として魅力あるまちづくりということも考えて、市のほうで子どもと高齢者の居場所づくりみたいなものに焦点を当てた動きというのはあるか。

◎ 市長回答 ◎

現状では特に空き家・空き店舗を活用して子どもや高齢者の居場所づくりを進めるという具体的な計画はございません。ただ、空き家・空き店舗が増えてきているのではないかとということでこれまで調査を行って、今ご指摘ありましたように一次調査では約600戸の空き家と思われる住宅を認知したところですが、その後、二次調査で実際に使っているかどうかという調査をしたところ、約半分の300戸ぐらいが本当の空き家で、管理上、周辺に危険ではないかと思われるような空き家対策特別措置法で言われる特定空き家と言われるようなものはまだ3軒ぐらいではないかと認識しております。

時間がかかって恐縮ですが、来年度から空き家について具体的にどう活用するか、不適正管理されている空き家についてどういう措置をするのかという取り組みを正式に立ち上げていく予定にしております。利活用の中で、今後、持ち主の方が「貸しても良い」という場合については、お住まいを探している方に斡旋して住んでいただくなり、あるいはNさんのような活動をされている方にお貸しして、市がそこに財政的な支援をするということも検討する必要があると考えております。

今の段階ではまだ具体的な計画はありませんけれども、ご指摘のように空き家・空き店舗・空き室を活用して子どもの居場所づくりで子ども食堂をされて、そこに一人暮らしで孤食になりがちな高齢者も子どもたちと一緒に食事をする。そこに周辺の農業者の方から食材を提供していただいたり、昨今はフードバンクみたいな取り組みもありまして、貧困家庭のお子さんに十分な栄養を取っていただくという支援を地域で始めている方々が増えつつありますので、市としてもそういったことについてどういう支援、対応をするかはこれからの課題になっております。正直に申し上げて、私個人としてはNさんの活動に非常に注目させていただいて、今後、市内で子ども食堂の活動がどのように展開するのか、そこに行政としてはどういう関わりを持ったほうが良いのか、いろいろご意見をいただきながら進めていきたいと考えております。

◎ 環境・住宅課より ◎

現在、「空家等対策の推進に関する特別措置法」の施行に伴い、「(仮称)東村山市空家等対策協議会条例」の制定を進めています。今後、本協議会で「空家等対策計画」の基本方針を策定し、平成29年度に「空家等対策計画」を策定する予定でおります。計画の中では空き家等の利活用等についても

検討していきます。

## ◆人と人のつながりを大切にしまちづくりを

(本町 Mさん)

9年前に東村山市にきた。市内をよく歩いていて、秋津町のほうから本町に戻ってくる時に道に迷うことが多かった。その当時と比べるといろいろな点がだんだんと良くなってきた。あと東村山の都市計画を今後どういうふうにしていくかというのを市報とかいろいろなもので案内していて、歩くとすぐに進捗がわかる。そこに東村山の新しい都市づくり・まちづくりというのが見えてくる。その中で、構造物だけではなくて人と人とのつながりというのが一番大事だと思う。各地域だけの話ではなくて地域間なり、東村山だけではなくて隣の市との連携というか、お互いに助け合わなくてはいけない。あと東村山には目立たないところで汗水かいて、地道に活動されている方もいる。早朝、寒い中、草むしりをしている方もいるが、そういう方にも「ご苦労様です」とか「綺麗になりましたね」とか声をかけていただきたい。そういう声かけがお互いのつながりに大事だと思う。どうしても検定主義になってしまうが、良いところは褒めて助けてあげるということも、東村山市として教育とかいろいろな面で広がっていければと思う。

### ◎ 市長回答 ◎

確かに東村山市は今、人口が若干減少傾向ですし、あまり財政的にも裕福なまちではありませんが、市民の方が人情味に溢れているというのでしょうか、非常に温かい方が多くて、まちのために人知れず地道に汗をかいて下さっている方が大勢いらっしゃいます。市長としてもそういった一人ひとりの市民の皆さまの真心や活動にこのまちは支えられているなど日々感じているところでございます。

これからもそうした人と人のつながりをできるだけ大切にして、市としてもそのつながりがさらにいろいろなかたちで深まったり広がったりするような支援、あるいはきっかけづくりを進められればと考えておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

---

---

## ～みんなが快適に暮らせる、活力と魅力にあふれたまち～ について

---

---

## ◆3・4・27号線（さくら通り）の進捗について

(青葉町 Tさん)

さくら通り（都市計画道路）に1件だけ残っているが、行政代執行の時期がきているのではないかと。近所の人によるとなかなか話し合いがつきそうもないと心配していた。

### ◎ 市長回答 ◎

さくら通りについては、今スポーツセンターから久米川町1丁目の野行通りまで事業を進めていて、ご指摘のとおり未買収地が1件のみという状況です。私を含め、市としても再三ご理解いただけるように交渉させていただいております。

地権者の方は売らないとおっしゃっているのではなくて、ぜひ協力はしたいと。ただ、生活再建を



するのにふさわしい土地をまだ探しているのもうしばらく待っていただきたいということで、今、市内外も含めて代替地を検討中という状況です。市としてもできるだけのお手伝いをさせていただいている状況ですので、現状では行政代執行等を行う予定はございません。

## ◆多磨全生園の将来構想について

(青葉町 Tさん)

多磨全生園の周りの垣根の手入れが全くされていない。市としては多磨全生園の土地だからということで道路の手入れもやってくれないが、人権の森構想とかがどうなっているのか。

### ◎ 市長回答 ◎

多磨全生園の将来構想については、ご案内のとおり入所者自治会の皆さんが人権の森として一種の公園のようなかたちで未来永劫にわたって残すようにという運動をされておりまして、市としてもそれに全面的に賛同して一緒に運動させていただいているところでございます。

まだ具体的に「将来、必ずこうなります」というようなことは明確に申し上げられる段階ではないと思いますが、先日も日本財団が主催した世界的なハンセン病のシンポジウムでも宮崎駿さんが「多磨全生園はぜひ残すべきである」ということを多磨全生園の自治会長さん等と一緒にご発言をされて、マスコミでもかなり取り上げていただいたように、市としてはまず多くの方々に多磨全生園の存在を知っていただき、かつ、人権の森を残すという運動に加わっていただくことが大事だということで、この間、市ではポスターや写真集、それから啓発用のDVDを作成し、都内の公立小中学校に配布して「人権教育の場としてぜひ多磨全生園に来て欲しい」という呼びかけをさせていただいております。

今後この運動を通じて、何とか多磨全生園を残せるようにしたいと考えておりますが、国も全体の予算が厳しいものですから、施設の植木の手入れ等になかなか手が届かないという状況があるようです。

市としてもうっそうとして道路上に繁茂して飛び出ているような枝につきましては、引き続き園に撤去のお願いをしていくとともに、これまでも市が音頭を取って市民の皆さまにボランティアをしていただきながら清掃活動等もさせていただいているので、そういう中で、一部、越境している枝・木について対応できないかどうか園とも相談させていただきたいと考えております。特に青葉町3丁目の皆さまには交通上ご迷惑をかけていることもあり、我々としてもそこは承知しているところでございますので、対応していただけるようにこれからも粘り強く園と交渉してまいりたいと考えております。

先日、シルバー人材センターの植木班が技術研修という名目で本町都営住宅の樹木を2日間、無償で手入れした。そういうこともできるので、一度シルバー人材センターのほうにかけあってみてはどうか。今年はまだ研修はないかもしれないが、30人が2日間働くと相当の仕事をするので、ぜひ声をかけてみては。  
(会場より)

### ◎ 市長回答 ◎

多磨全生園の垣根の手入れにつきまして、シルバー人材センターの植木班の方が技術研修で対応できるかもしれないという情報提供をいただきました。ありがとうございます。

◎ 高齢介護課より ◎

シルバー人材センターに確認したところ、以下のようなことであります。

本町都営の樹木剪定をシルバー人材センターが無償にて手入れをしたことは事実。しかし、これは他の生垣や樹木の剪定を請け負っている関係で行ったものであり、まったくの無関係の場所で技術研修を実施した訳ではありません。

また、多磨全生園であると敷地も広大であり、そのすべてを研修で対応することは困難。たとえば、生垣や樹木剪定に関し一定の業務を請け負うことができれば、一部については技術研修としての対応も可能であるので、まずはご相談ください。

## ◆所沢街道の歩道整備を

(青葉町 Oさん)

多磨全生園のそばに住んでいる。障害者の方が仕事する職場の非常勤職員をしていて、何かと多磨全生園に行くことがあるが、所沢街道のフェンスに沿った道がとても状態が悪くて、車椅子とか障害者の方が歩く時につまずくぐらい良くない。多磨全生園を人権の森として残していきたいとか、映画「あん」を観て訪れる方があの道を通ると残念に感じると思う。すごく利用が多い道だが、車椅子を押すと他の人は通れないぐらい狭いので改善していただきたい。

◎ 市長回答 ◎

ご案内のとおり所沢街道は都道でございます、東京都は野火止用水のほうから順次拡幅して歩道を広げるという取り組みをしてはいるのですが、相手があることなので、まだ多磨全生園のほうまできていないということがあります。

また、かねてから多磨全生園の前の歩道の拡幅と、青葉町3丁目から青葉小学校に通う児童・生徒につきましては歩道橋を渡らなければならなくなっておりまして、あそこについても「できれば信号を設置して欲しい」という要望をいただいております。

警察との協議では「道路が広がればそれも可能だが現状では厳しい」と言われておりますので、市としては、再度、東京都にできるだけ早期に所沢街道の拡幅をしていただけるよう強くお願いをしていきたいと考えております。

◎ 道路管理課より ◎

道路管理者である東京都に問い合わせた内容は以下のとおりです。

「所沢街道の歩道設置工事の進捗状況」でございますが、青葉町一丁目地内（東久留米市境・野火止用水）から青葉町二丁目地内（全生園西側の横断歩道橋）までの約900メートルの区間において、歩道設置事業を実施しているところであり、平成27年度では、南側約350メートル区間において、西側の歩道整備工事を実施する予定と伺いました。

当該歩道設置事業区域内の用地取得率は約6割となっており、用地取得の状況に合わせ工事を実施していく予定と伺っております。

## ◆新空堀橋に横断歩道の設置を

(青葉町 Tさん)

所沢街道の新空堀橋に信号機を設置するのは難しいようなので、横断歩道を書くのは簡単だと思うので、ぜひお願いしたい。

### ◎ 市長回答 ◎

所沢街道の新空堀橋のところに信号の設置は難しいので、少なくとも横断歩道を設置して欲しいという趣旨でございます。横断歩道の設置については警察の権限になるので、今までのやり取りの中ではもしかすると横断歩道の設置も厳しいかなと思いますが、改めて「何とか横断歩道だけでも」ということで警察のほうに伝えてみたいと考えております。

### ◎ 地域安全課より ◎

東村山警察署に申し入れをした結果、新空堀橋直近に既設の横断歩道があることから設置についてはできないとの回答を得ました。また、信号機設置についても前後に設置状況があることから設置できない旨の回答を得ました。横断の際は直近の横断歩道を利用するとともに、市としても警察と協力して、安全教育、啓発活動を継続していきます。

## ◆人口減少対策について

(富士見町 Iさん)

今、東村山はアメリカのインディペンデンス市、それから中国の蘇州と友好都市関係を結んでいる。市内にも結構、外国人が運営する料理店がちらほら出てきている。こういった国際活動をするのに、東村山市では今3つの団体がそれぞれ力を入れて国際活動に専念していると思われる。東京都全体では人口が増えているが東村山市では減る傾向にある。こういった問題を解決する1案として、これをさらに市で支援して、外国の方に住みついていただけるような活動はいかがなものか。

### ◎ 市長回答 ◎

ご指摘のとおり、東村山市はアメリカ・ミズーリ州のインディペンデンス市とは姉妹都市で、中国の蘇州市とは友好交流都市の関係にあります。アメリカとは国際友好協会という市民団体、中国とは日中友好協会という市民団体の皆さまがそれぞれ窓口となって活動されています。

それから市内には今2000人を超える外国籍市民の方が在住されていて、国籍も60か国以上だと思いますが、一番多いのは中国・韓国、それからフィリピンの方です。市内在住の外国籍市民の方との交流を深めているのは地球市民クラブという団体の方で、日本語教室をやったり、いろいろな相談によって対応していて、東村山に馴染んでいただけるような支援をしてくださっているところがございます。今後、人口減少社会の中で、国籍に関わらず多くの方に東村山を知っていただき、来ていただいて、気に入っていただければ住んで欲しいなと私としても考えているところがございます。

今は2020年の東京オリンピックに向けて、当市というよりは国全体、あるいは東京都が外国人観光客の誘致（インバウンド）にかなり力を入れているところがございますので、市としてもそこを踏まえてどうしていくかということがあります。

東村山を舞台にした「あん」という映画が昨年、公開され、国内でも45万人の方がご覧になられ、

海外でも50ぐらいの国で公開されましたが、今回、市から補助金を出して市民の皆さまにロケ地マップというのを発行していただき、英語・中国語・韓国語でも案内できるように3パターン作っていただきました。

例えば多磨全生園は観光地ではないのですけれども、東京で唯一のハンセン病の療養施設ですから、映画「あん」とうまくマッチングして来ていただくとか、あと東村山市には北多摩では唯一の酒蔵がございまして、今いろいろなイベントを一生懸命やっただいていて、先日もフランスの方が酒蔵見学に大勢お見えになったというようなことを聞いておりまして、外国の方にとっては酒蔵も1つの大きな観光資源になっているというようなことがあります。それをきっかけにまずは東村山にぜひ来ていただいて、できればその後も何とか住んでもらえるとありがたいと考えております。

それと、ごみ出しについての問い合わせが非常に多いので、今回、スマートフォン用のアプリを開発して、それをご覧いただければどのごみをどう分別すれば良いかわかるようになっていまして、こちらについても日本語だけではなくて英語、中国語、韓国・朝鮮語で対応する予定にしています。

今後、できるだけ海外の方にも東村山市に住んでいただくために、住んだ場合のルール等についてご理解いただける取り組みをするとともに、近年では地球市民クラブの皆さまにもご協力をいただいて、震災訓練に外国籍の方に参加いただいたり、直接市でやっているわけではないのですけれども、いろいろな法律相談のご紹介をしたりということで、外国籍の方の対応についても地道な取り組みをしています。今後、まず知っていただき、来ていただいて、気に入っていただけたら住んでもらえるような一連の流れをどのように作っていくか。

住む場所の支援まではなかなか難しいのですが、先ほど申し上げた空き家・空き室の活用の中で、これから外国籍の方を受け入れるような土壌を築いていくことが大切ではないかと考えております。

#### ◎ 市民相談・交流課より ◎

当市では外国人市民の方が、安心して暮らせるように色々な方策を立てています。

例えば、市民相談・交流課の窓口には外国人市民向けに、英語、中国語、韓国・朝鮮語のできる多文化共生相談員を配しています。市役所内の手続きのサポートのほか、生活全般において、税金、子育て、教育、在留資格、生活習慣、異文化ストレスなどのさまざまな相談を多言語で受け、支援します。

また、関係所管より依頼があれば、乳幼児の健診や小・中学校の保護者説明会などへ出向いて通訳をしたり、お知らせ文を翻訳したりします。

外国人市民が当課窓口に見えた際には、東村山市の国際友好協会、日中友好協会、地球市民クラブなどの団体と協力して行っているイベントや語学教室などを必要に応じて案内します。

今後も、各団体や市民の方々にご協力をいただきながら、外国人市民も、安全に安心して東村山で暮らせるようなまちづくりを進めてまいります。

## ◆中央図書館のバリアフリー化を

(青葉町 Oさん)

中央図書館は市民の方が一番集まる場所なので、できればバリアフリー化をお願いしたい。私は読み聞かせボランティアをしているので2階の集会室に子どもたちや聞き手の方を集めたお話会をするが、障害者の方が2階に上ってこられない。中央図書館という場としてはもったいないと思う。建て替えは難しいと思うが、そういったことが何かのアイデアで改善されればありがたい。

### ◎ 市長回答 ◎

昭和47年に今の市役所ができて、中央図書館については昭和49年にできた建物なので、かなり老朽化していて、その都度、施設の改修等を行ってきたのですが、今年度実施した耐震診断で一部、地下室の耐震強度が足りていないことが判明しまして、今後、中央図書館については耐震補強工事を行っていく予定となっております。その中では2階へのバリアフリー化というのは検討しておりませんでした。今の建物を活かしてとなると、エスカレーターやエレベーターを設置することは極めて難しいのですが、何らかの代替の措置が取れるかどうか検討したいと考えております。

### ◎ 図書館より ◎

図書館の2階は、集会室・読書室など利用目的が限定される場所であるため、職員が2階へ利用者の誘導をお手伝いしたり、行事の会場をほかのバリアフリーな施設にするなど柔軟に対応しております。現在の施設で2階に上がる設備を新たに設置することは、館内の避難経路の確保など課題も大きく、困難だと考えております。

### ◎ 施設再生推進課より ◎

高度成長期に整備した公共施設が今後一斉に更新時期を迎える、いわゆる「公共施設の更新問題」は全国の自治体が共通して抱える課題となっております。

市では、この問題を解決するため、「東村山市公共施設再生計画（基本方針・基本計画）」を策定し、公共施設の最適化に取り組んでいます。

同基本計画では、施設分類ごとに現状と課題を整理し、今後の再生の方向性を示しており、図書館施設については、大規模修繕や建て替えの際は、他施設のサービスとの複合化や民間活用の可能性等も検討し、さらなるサービス向上や維持管理の効率化を図ることとしています。

## 【市長まとめ】

今日は第100回目ということでいつもとは少し違って、前半は私のほうからこれまでの経過について説明をするというかたちを取らせていただきました。内容についてはご説明させていただいたとおりで、富士見町の1さんからは「こんなに達成しているのでびっくりした」というお褒めの言葉もいただきましたけれども、ある意味、やらなければならない当たり前のことをやっているとも思いますし、特に一番要望の多かった道路・交通関係は実は半分程度しかできていないという実状もあえてきちんとお示しをしたところでございます。

まずはこのまちで暮らしてがんばっていただいている市民の皆さまの声を大切にしながら、これからも皆さまと一緒に、ハード・ソフトにわたって東村山のより良いまちづくりに向けてがんばっていきたいと思いますので、今後も機会があれば「たまには提案してあげようか」とお顔を出していただいて、発言していただければありがたいと考えております。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。今日は長時間にわたり、ありがとうございました。



市民と市長の対話集会  
第100回  
タウンミーティング記録集

発行 平成28年5月  
東村山市市民部市民協働課  
東京都東村山市本町1丁目2番地3  
TEL 042(393)5111  
内線 2564・2565